日本音楽理論研究会第 38 回例会のお知らせ

日本音楽理論研究会は、昨年から初めてオンライン例会にチャレンジしました。こうした活動を継続することは非常に意義あることと考え、本年度例会もオンライン例会を開催いたします。
今回は、最初に、クロード・レヴィ＝ストロースのオイディプス神話論に想を得た音楽分析＝「範列分析」の民俗芸能とコンテンツ文化の音楽への応用可能性の検討に関する発表と、PC セット理論第 3 回目＋シェーンベルク《架空庭園の書》作品 15 第 11 曲の分析です。奮ってご参加ください。

◆◆◆　日本音楽理論研究会第 38 回例会　◆◆◆

日時：　2022 年 5 月 15 日（日）　13：00－18：00　Zoom によるオンライン開催

参加方法：　dolcecanto2003jp@yahoo.co.jp に、以下の内容のメールを送信された方に Zoom の URL を返信いたします。
・メールのタイトルに、「日本音楽理論研究会第 38 回例会参加希望」とご記入ください。（メールの見落としを防ぐために）
・メールの内容に、「お名前、所属（があれば）、メールアドレス」をご記入ください。
・初参加の方は、簡単な自己紹介、およびどのように本研究会をお知りになったか必ずご記入ください。
・申し込み期限：　2022 年 5 月 14 日（土）23 時（日本時間）厳守でお願いいたします。

参加費：　オンライン試行のため、前回に続き、今回も無料とします。

※　注意：
・Zoom の接続に関しては、こちらではサポートできません。
・途中参加および途中退出は自由です。
・質疑応答時に発言希望される方は、チャットに「お名前」を書きこんでください。時間の許す限り、司会から指名させていただきます。なお、発言は 1 分以内で簡潔にお願いいたします。

◆　プログラム　◆

※　以下におよその時間配分を記載しますが、変更される可能性があります。
※　発表要旨の詳細は、日本音楽理論研究会ホームページに掲載します。
※　例会の発表内容は後日、「日本音楽理論研究会通信」（2022 年 6 月発行予定）で報告します。

開会宣言　（13:00-）

★　発表 1　（13:10-13:40）質疑応答（13:40-13:50）
川﨑瑞穂：「範列分析 analyse paradigmatique」のススメ　―民俗芸能とアニメソングを事例として―

クロード・レヴィ＝ストロースのオイディプス神話論に想を得た音楽分析を、本来的な意味とは異なるという指摘はあるものの「範列分析」と呼ぶことがある。本発表では、民俗芸能とコンテンツ文化の音楽を例に、範列分析の応用可能性を検討する。最初にアニメ『true tears』のオープニング《リフレクティア》のサビにおける、動詞の範列と旋律の範列を指摘する。次に、東日本を中心に各地に伝わる「三匹獅子舞」の歌のうち、東京都西多摩郡瑞穂町箱根ケ崎に伝わる獅子舞を例に、詞章と旋律とリズムの範列分析を行い、その構造を提示する。

== 特集 == PC セット理論について Part3 ——シェーンベルク《架空庭園の書》作品 15 第 11 曲の分析——

※ 分析対象作品の楽譜は以下のサイトから入手可能です。
Das Buch der hängenden Gärten, Op.15 (Arnold Schönberg)
https://imslp.org/wiki/Das_Buch_der_h%C3%A4ngenden_G%C3%A4rten%2C_Op.15_(Schoenberg%2C_Arnold)

※ 分析対象作品の演奏は以下のサイトで試聴できます。
https://www.youtube.com/results?search_query=Sch%C3%B6nberg+Das+Buch+der+h%C3%A4ngenden+G%C3%A4rten

★ 発表 2（13:50–14:20）質疑応答（14:20–14:30）
見上潤： いわゆる「1908 年問題」についての歴史的考察

本発表は、PC セット理論が必要となった歴史的背景について考察する。一言で言えば、古典的和声法による分析が適用困難な作品の登場に他ならない。とりわけ、1908 年を境にして多くの作曲家が作風をいわゆる「無調性」へと転換し始めたことが注目に値する。この経緯を重要と考えられる作曲家の作品群の系譜を歴史的に鳥瞰する。他方、古典的和声法による分析が適用困難な作品は中世末期まで遡ることができる。そうした作品群の系譜についても、今後の研究対象として提起する。

★ 発表 3（14:30–15:00）質疑応答（15:00–15:10）
川本聡胤： PC セット理論（3）—PC セット分析の初歩—

無調音楽を分析するために発展してきた PC セット理論について紹介するシリーズの第3回目として、本発表では、PC セット分析の初歩的概念、すなわちノーマルフォーム、セックラス、プライム・フォーム、そしてそれらの移置や転回について、考察する。なかでもプライムフォームがこれまでの先行研究において最も重視されてきたので、本発表ではプライムフォームによる分析の一般的な手法を紹介する。ただし、従来忘れられがちであったノーマルフォームとその移置や転回についても、楽曲の理解を助けてくれるので楽曲分析にとって有効であることを指摘したい。

休憩 20 分（15:10–15:30）

★ 発表 4（15:30–16:00）質疑応答（16:00–16:10）
見上潤： シェーンベルク《架空庭園の書》第 11 曲 歌詩と音楽の分析

本発表は、いわゆる「無調性」で作曲されたとされているシェーンベルクの《架空庭園の書》作品 15 第 11 曲を分析する。演奏家がこの限定された対象を与えられた際にいかなるアプローチが可能なのか、歌詩と音楽の両側面から作品に向き合う。音楽分析については、島岡譲のゆれ理論が適用可能かどうか、その理論の射程の範囲内にこうした「無調的」作品も入るのかも問題にする。川本氏の PC セット理論による分析理解への一助となることができれば幸いだ。

★ 発表 5（16:10-16:40）質疑応答（16:40-16:50）

川本聡胤： シェーンベルク『架空庭園の書』第 11 曲 ーピッチセットとピッチクラスセットー

PC セット理論が一般に、無調音楽を分析するのに有効であることは、数多くの分析により示されてきたが、いまだにその必要性について懐疑的な向きもある。本発表では、シェーンベルクの『架空庭園の書』第 11 曲の PC セット分析を通して、ピッチセットをピッチクラスセットに還元することで初めて見えてくる楽曲の重要な構造の存在について、考察を加える。デヴィッド・ルーインやジョゼフ・ストラウスらによる先行研究を参照しつつも、オリジナルな分析を示したい。また、この発表を通じて、PC セット分析の一般的な手順をも明らかにしたい。

休憩 10 分（16:50-17:00）

★ ラウンドテーブル（17:00-18:00）

****** 今後の例会の予定（発表者募集中） ******

※ 注意： 日程・時間・内容等、変更になる場合がありますので、最新情報はホームページでご確認ください。

★ 第 39 回例会 2022 年 10 月 2 日（日）【創立 20 周年記念特別企画】を予定！

★ 第 40 回例会 2023 年 5 月 14 日（日） 詳細未定

****

日本音楽理論研究会事務局（本部） Secretariat of THE SOCIETY FOR MUSIC THEORY OF JAPAN

HP: http://sound.jp/mtsj/ TEL &FAX: 097-545-4374 Email: endo@oita-pjc.ac.jp

〒870-0833 大分市上野丘東 1-11 大分県立芸術文化短期大学音楽科 遠藤研究室気付

日本音楽理論研究会東京事務局 Tokyo office of THE SOCIETY FOR MUSIC THEORY OF JAPAN

Email: dolcecanto2003jp@yahoo.co.jp （見上潤 Mikami Jun）

****